

# 畑作物は水稻より潮風害を受けやすい。

## 畑作物の適正な基準により潮風害の発生範囲や対策を見直すべき

### 1 潮風害の発生許容量の目安

- ・水稻 4.8mg/100cm<sup>2</sup>
- ・レタス 2.0mg/100cm<sup>2</sup>
- ・ハクサイ 2.6mg/100cm<sup>2</sup>

国の対策の基準  
畑作物は潮風害の  
影響を受けやすい

※レタス・ハクサイは長崎県農林技術開発センターの試験データ

### 2 短時間の風で塩害発生

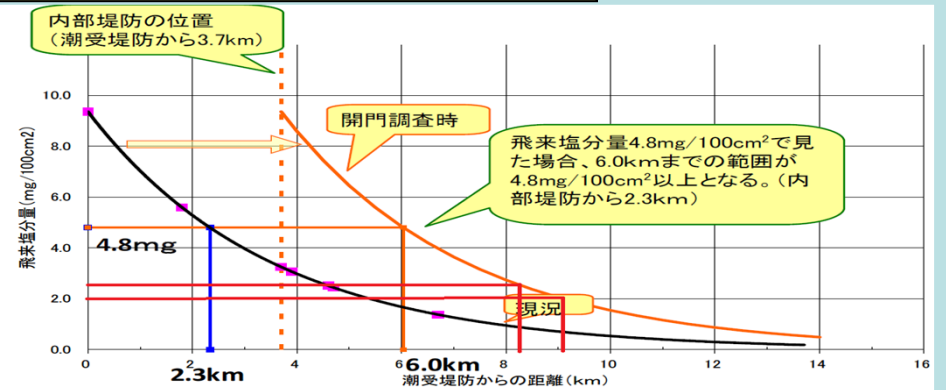
- 国の対策は、水稻の許容塩分量4.8mg/100cm<sup>2</sup>に達する前に、200haづつ、3日のローテーションで散水、除塩を行う対策
- 平均風速 7.25m/s以上の風が、3日間（72時間）吹いたときに水稻の許容塩分量4.8mg/100cm<sup>2</sup>に達する。
- レタス、はくさいが許容限界量に達するのは、22~32時間と早く、散水は間に合わない。
- 平均風速 7.25m/s以上の風の年間発現日数は9日である。（平成14~23年平均 農林技術開発センター干拓部門データ）

潮風害発生の許容時間（許容塩分量に達する時間）

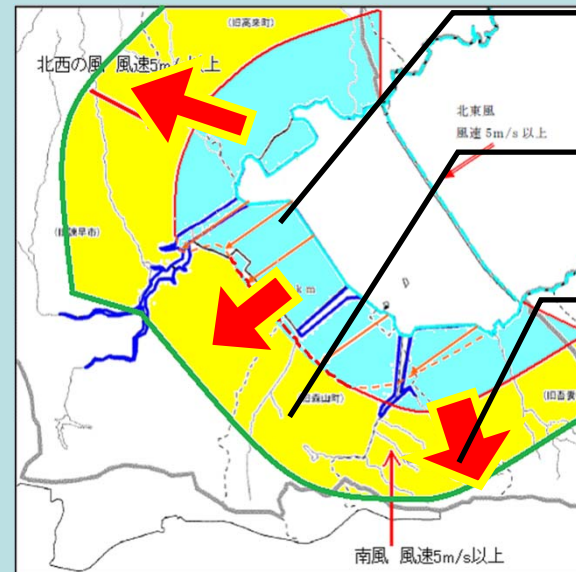
	許容塩分量	風速7.25m/s
水稻	4.8mg/100cm <sup>2</sup>	72.0時間
はくさい	2.6mg/100cm <sup>2</sup>	32時間
レタス	2.0mg/100cm <sup>2</sup>	22時間
年間の発現日数		9日

※レタス、はくさいについては、3日かかる対策では対応できない。

### 3 塩害の発生する範囲が拡大



開門した場合、内部堤防から2.3kmの範囲で潮風害の発生の危険性が高いとしているが、ハクサイ、レタスでの塩害発生許容限界濃度で範囲を推定すると、内部堤防から4.5~5.4kmの範囲まで拡大。



水稻の潮風害  
発生範囲  
(国の対策範囲)

畑作物の潮風害  
発生範囲

畑作物の潮風害の発生範囲は、水稻よりも  
広がる恐れ。